

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	プライバシーを損ねない声掛けを心がけているが、日々の関わりの中で、感情が出てしまうことや、職員一人一人の判断での対応となってしまう、職員全体で入居者への関わり方について話し合う機会があまり持てていない。	職員一人ひとりが自らの関わりについて振り返り、気をつけなければいけない点を話し合いお互いに注意しあえるような環境を作る。	毎日の申し送りの際に気付いた点があればその場で話し合うようにし、ミーティング時に話し合う機会を定期的に設け、ケアに対して振り返る機会を作り職員一人一人の意識が薄れないようにする。	6ヶ月
2	37	自分の意志や希望を表現できる入居者に関しては、出来るだけその思いに添えるように努めているが、自らの意志を表現しにくい入居者に関しては、他入居者の意見を優先させてしまう場合がある。	入居者それぞれの状況に合わせて一人ひとりの意志を汲み取れるよう工夫し、個別的な援助を提供する。	普段の様子や以前の暮らしぶり、家族から伺った生活歴、職員の関わり方に対する反応等を考慮し、その方の望む暮らしがどういったものであるかを常に考え、個別的に援助を行うようにする。	6ヶ月
3	49	天気の良い日は出来るだけ外出するようにしているが、一部の入居者の希望や職員主導の外出になってしまうことが多い。	入居者の要望をこれまで以上に引き出すことを心がけ、その思いに添えるように、家族とも協力しながら支援していく。	職員側から外出を提案する際は、外出先の写真等を利用して要望を伝えにくい入居者にもわかりやすいように工夫し、入居者側から外出の希望があった際は出来るだけその希望に添った外出を行い、職員で連れて行くことが困難な場所については(昔住んでいた馴染みの場所等)家族への協力を働きかける。	1ヶ月
4	21	入居者同士のトラブルが起きないよう未然に回避しているものの予期せぬトラブルが起こることがあり、職員が仲裁に入るが他入居者が不愉快な気分になってしまうことがある。	常に職員が状況把握に努めトラブルがあった際は場所を変え、仲裁とそのフォローを職員間で連携して行う。	業務日誌や申し送りノートを利用して状況を詳細に記入し把握すると共に、トラブルになった場合、周囲のフォローも職員間で連携して行う。	6ヶ月
5	35	災害時を想定し、外出の際に入居者誘導の順番や全員を誘導するのにどの程度の時間がかかるのか、シュミレーションを行っているものの、実際に起きた場合に不安が残る。	災害時、入居者全員が安全に避難できる方法について、他部署も交えた職員との協力体制を築く。	実際に災害が生じた時に、職員がどのように動けばよいのか、災害時のマニュアル作成や、避難訓練を通して職員それぞれが理解する。また、夜間帯職員が一人になる時の対応など、具体的な対策をたてる。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。